

モデル事業の検証

平成19年8月

■事務事業名；図書館、コミュニティ・センター連携事業

(自由ヶ丘コ地区コミュニティ・センター図書貸出事業)

事業所掌課；教育部図書課（市民図書館係）

1、事務事業の概要

◇事業目的；図書館利用者が、身近な施設で本の貸出・返却などの図書館サービスを受けられるようにする。

◇概要；モデル地区（自由ヶ丘地区コミュニティ・センター）に配本車を運行させ、コミセンで予約図書の貸出（受取）や、自由ヶ丘コミセン及び市民図書館3館で貸し出された本の返却などの受付業務を行う。

◇事業開始年度；平成17年

2、事務事業のコスト

◇歳出額

単位：円

| 年度 | 貸出・返却処理委託料 | 配本業務委託料 | 合計 |
|----|------------|---------|---------|
| 17 | 132,600 | 150,000 | 282,600 |
| 18 | 132,600 | 153,000 | 285,600 |

3、事務事業の実績・効果

◇利用状況（資料1）

単位：冊

| 年度 | 貸出処理冊数 | 返却処理冊数 | 合計（冊） |
|----|--------|--------|-------|
| 17 | 795 | 2,898 | 3,693 |
| 18 | 1,241 | 3,751 | 4,992 |

※ 増加率：貸出冊数 156% 返却冊数 129% 全体 135%

◇行政効果（費用対効果）

行政効果は投資額に対して、市民にどの程度還元されたかを示します。

算定式は、＜図書の平均単価×図書貸出冊数－総経費＝市民還元額＞

17年度の行政効果＝市民還元額は、約28万3千円の投資に対し、3.6倍の約101万3千円、18年度は28万6千円の投資に対して6.6倍の190万円が市民に還元されたこととなります。

| 年度 | 総経費 a | 図書購入費 b | 購入冊数 c | 図書平均 単価 b/c d | コミセン 図書貸出 冊数 e | 行政効果 (市民還元額) d×e-a | 行政効果 比率 |
|----|----------|------------|-----------|---------------------|----------------------|--------------------------|------------|
| 17 | 282,600 | 22,378,889 | 13,725 | 1,630 | 795 | 1,013,250 | 358% |
| 18 | 285,600 | 22,179,972 | 12,613 | 1,759 | 1,241 | 1,897,319 | 664% |

※図書平均単価は、雑誌を除く。

◇単位あたり投入費用

貸出・返却1冊あたりの処理費用

《総経費÷貸出返却冊数》

| 年度 | 総経費 | 貸出返却冊数 | 貸出返却1冊あ たりの費用 |
|----|---------|--------|------------------|
| 17 | 282,600 | 3,693 | 77円 |
| 18 | 285,600 | 4,992 | 57円 |

4、利用者の意識

自由ヶ丘地区コミュニティ・センター利用者に、コミセンでの図書貸出利用に関するサービスについて、どのように利用されているかを把握するため、アンケート調査を実施しました。

◇アンケート概要

- ・調査期間：平成19年8月2日～9日 8日間
- ・調査方法：自由ヶ丘地区コミュニティ・センターにて調査票配布
- ・回答者数：32人

◇アンケート調査結果の概要

| 項目 | 構成比 |
|------------------------|---|
| コミセン利用者の住所 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由ヶ丘地区 65.6% ・自由ヶ丘地区外 34.4% ・市外 0% |
| コミセンでの、図書貸出・返却サービスの認知度 | <ul style="list-style-type: none"> ・知っている 87.5% ・知らない 12.5% |
| コミセンでの、図書貸出・返却サービスの利用度 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用したことがある 81.3% ・利用したことがない 18.7% |
| 現在のサービスについて | <ul style="list-style-type: none"> ・継続希望 87.5% ・どちらでもよい 12.5% ・必要としない 0% |
| 利用者の性別 | <ul style="list-style-type: none"> ・男 28.1% ・女 71.9% |

5、事務事業の検証

◇必要性

身近な施設で、本の貸出・返却ができることから、図書館利用者の利便性が向上し、利用件数は大幅に伸びている。また、アンケート調査でも 87.5%の人が、現在のサービスの継続を希望しており、必要性は高い。

◇有効性

投入費用は利用者の増加に伴い、貸出・返却 1 冊あたりの処理費用は 77円から 57円に抑えられ、行政効果（市民還元額）は、17年度の 101万3千円から 18年度は 190万円となり、1.9倍の伸び率で効果的に事業が実施できたと考えられる。

◇効率性

コミュニティ・センターに業務を委託することにより、図書館利用者の利便性が向上し、さらにコストの削減が図られた。

◆総合評価

事業実績、行政効果から、本事業の維持が必要である。

6、今後の取組み方針

本事業を継続し、現行の取組み内容を維持する。

7、今後の課題

事業拡大にむけて、他のコミュニティ・センターとの連携（事業展開）のありかた。

自由ヶ丘地区コミュニティ・センター図書貸出事業

単位:冊

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 平成17 | 268 | 237 | 323 | 266 | 382 | 279 | 296 | 382 | 205 | 270 | 351 | 434 | 3693 |
| 平成18 | 300 | 338 | 384 | 302 | 452 | 407 | 433 | 419 | 403 | 396 | 515 | 643 | 4992 |
| 平成19 | 512 | 609 | 527 | 503 | 597 | | | | | | | | |

